

# 公立大学協会

## 公立大学協会ニューズレター Vol.4/No.4

2010年5月21日発行（通刊第19号）

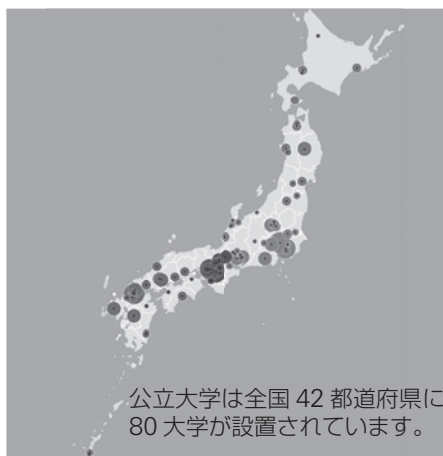
【発行責任者】矢田 俊文（公立大学協会会長／北九州市立大学長）

【編集責任者】中田 晃（公立大学協会事務局長）

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimmu@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/



公立大学は全国 42 都道府県に  
80 大学が設置されています。

## 「逆風の中の攻勢」第2弾—評価制度と改革支援

公立大学協会 会長 矢田俊文(北九州市立大学長)

「逆風の中の攻勢」と銘打って出発した2009年度の公立大学協会活動も、18歳人口の減少、財政逼迫の継続、リーマンショックなど「逆風」に加えて、突如受験界を襲った新型インフルエンザ騒動、民主党政権の成立と「政治主導」という政策の不連続性も加わって、「逆風」のなかに強烈な「つむじ風」が吹いて、一層混沌の中の1年でした。

そのなかで、公立大学協会60周年記念式典と記念講演・シンポジウムを12月1日に盛況のうちに開催でき、また、内容の充実した60周年記念誌『地域とともにつくる公立大学』を発刊することができました。会員の皆様の多大な協力に深く感謝いたします。「公立大学のプレゼンスの向上」は相当の成果をあげることができました。

また、民主党政権の「既存政策の見直し」気運に乗り、2010年度予算編成期に、幹事長室、文部科学大臣・副大臣、総務大臣政務官に公立大学の置かれた状況を説明し、6年連続減少してきた地方交付税の公立大学積算単価を9.3%引き上げることに成功しました。「つむじ風」の中の成果です。公立大学学長の皆様の各種政府委員としての活動、新聞・雑誌での意見表明なども確実に効果をあげています。さらに、公立大学協会のもとに置かれた各種委員会が担当した政策・教学・経営、各分野での改革支援活動は、地域貢献、医療・看護・福祉、芸術分野などで着実な成果を

あげました。

2010年度は、これらの成果の上に立ち、新しい課題に取り組みます。

第1に、学校教育法に定められた認証評価が7年のサイクルを終え、2011年度から第2クールに入ります。認証評価の内容が、個々の大学改革のあり方に強い影響を与えることから、大学評価・学位授与機構や大学基準協会等の認証評価制度の変更に注目し、敏速に対応します。合わせて、ほとんどの公立大学が法人化し、その法人評価が設置者である個々の自治体によって実施され、その相互比較・平準化が不可欠となっています。これに関連して、各大学内でのPDCAサイクルの確立と各種学内情報の蓄積・公開の支援を進めていきます。

第2に、公立大学の法人化も6年の中期計画を終える大学が出始め、制度そのものの課題と見直しが迫ら



公立大学の行財政について小川総務大臣政務官(左端)に要望されています。地域主権の時代の人材養成を担う公立大学の法人制度の改善を提起するとともに、引き続き地方交付税の大学分積算単価の引き上げを求めています。

第3に、会員大学の改革支援を昨年度から引き続き推進します。国際水準の教育研究の構築、学生支援の強化、教養教育の再生、地域貢献の推進、職員組織のあり方等共通課題とともに、医療・看護・福祉、芸術等の分野の改革支援を強化していきます。

『地域とともにつくる公立大学—公立大学協会60周年記念誌』  
5月25日に発刊されます

会員校の皆様のご協力をおもちまして、『地域とともにつくる公立大学—公立大学協会60周年記念誌』が、5月25日に発刊の運びとなりました。本号では、第17号（2009年12月1日発行）に引き続き、記念誌の第Ⅱ部に掲載の「公立大学の特色ある取組み・改革」から、右記6大学を紹介します。

### 公立大学の特色ある取組み・改革

- 公立ほこだて未来大学  
教育と研究で地域をデザインする！（2）
- 金沢美術工芸大学  
地域とともに開かれた大学づくり（3）
- 静岡立大学  
個を拓き、強い絆で知を発信（4）
- 神戸市看護大学  
住民との協働を基盤にした看護職の人材育成（5）
- 奈良県立医科大学  
地域医療を支え世界に羽ばたく（6）
- 広島市立大学  
国際、情報、芸術、平和の知の拠点（7）

公立大学の特色ある取組み・改革 12

## 公立はこだて未来大学

学長：中島秀之（人工知能・情報技術）

### 教育と研究で地域をデザインする！

産・官・学・民を有機的に繋いで函館から未来を創る

#### ■ 地域を飛躍させる研究と教育

公立はこだて未来大学は、知的・文化的・国際的な交流拠点として地域社会と連携し、学術・文化や産業の振興に寄与するべく、教育研究活動を通じた地域の活性化に取り組んでいる。公開講座はもとより、国際水産海洋都市を担うマリン IT、病院の情報化プロジェクト、函館の歴史的遺産のデジタルアーカイブなど、多様な形態で産・官・学・民を有機的に繋ぐ活動を行っている。以下、教育研究活動が地域活性化に直結した二つの例を紹介する。

#### ■ 観光シンボル IKABO の開発

「いか踊り」を踊るイカロボットの開発が始まったのは、2005年のことである。市民の有志から、函館の観光シンボルとなるロボットが作れないかという相談が、未来大学に持ち込まれた。地元最大の祭りである港祭りの呼びものは、「いか踊り」のパレード。これを踊るロボットを開発することが決まった。産官学連携の



IKABO のデモ（日本科学未来館）

開発プロジェクトが函館高専や地元企業および自治体を巻き込んでスタートし、また市民有志は「ロボットフェス・イン・はこだて市民の会」を設立して資金集めや運営を進めた。2006年秋には高さ2メートル強、重さ200キロのイカロボットが完成、愛称は市民からの公募により「IKABO」と決まった。港祭りをはじめ函館のイベントやTV番組などに出演して観光シンボルの役割を果たす一方、函館市が企画した観光振興用のCG動画（アクセス数100万件を超える）の中にもコミカルな役回りで登場し、その人気から観光みやげグッズが発売されるまでになった。

#### ■ 科学祭が育む地域教育活動の連携

「科学を文化に」を合言葉に企画された「はこだて国際科学祭」は、未来大学からの呼びかけに応じて地域の連携が形成された例だと言えよう。未来大学開校10年目および函館開港150周年とも連動して2009年8月に開催された国際科学祭は、9日間の会期中、71イベントに合計8,500人



はこだて国際科学祭（五稜郭タワー）



の参加をみた。

函館という地方都市における科学イベントで、これだけの動員ができることを示した点でも大きな成果と言えるが、開催準備の過程で科学教育活動を行う地域の人々の繋がりが形成されたことが特に意義深い。運営主体として、未来大や北大、函館高専などの教育研究機関、函館市などの行政機関が連携する「サイエンス・サポート函館」が組織され、イベントの準備・広報・実施にあたった。これを母体に、さらにNPO、ボランティアなどの団体や個人も参加・出展し、子どもから高齢者まで、素人から専門家までが集う場として、科学祭を成功させることができた。

#### ■ 大学をエンジンに地域が飛躍する

函館は人口30万人規模の都市だが、大学と地域の関係にはちょうど良い大きさだ。巨大都市では地域との結びつきが希薄になる。小さな都市ほど結びつきは強くなるが、小さ過ぎると活動自体が少ない。活動テーマには事欠かない程度に大きく、かつ地域全体とかがわれる函館ぐらいの規模が理想的だ。学生たちは様々な活動で地域に入り込んで行き、その活力が地域を活性化させると同時に、学生たちに貴重な学びの場を与える。単なる「地域貢献」を超えた相互作用をデザインすることが重要だ。

#### 大学 DATA (2009)

学部：システム情報科学部

研究科：システム情報科学研究科

本部所在地：〒041-8655 北海道函館市亀田中野町116-2

交通：JR函館駅からバス45分

TEL:0138-34-6448 FAX:0138-34-6470

設立年：2000年

設置者：公立大学法人公立はこだて未来大学(函館圏公立大学広域連合)

学生数：1,170名 教員数：68名 職員数：20名

公立大学の特色ある取組み・改革 13

## 金沢美術工芸大学

学長：久世建二（工芸（陶磁））

### 地域とともに開かれた大学づくり

学生プロジェクトでまちの活性化を

#### ■ 地域に開かれた大学づくり

金沢美術工芸大学は、1946年に創設。爾来、美術工芸研究所の設置、大学院創設、博士後期課程の設置と、年をおってその教育研究組織を拡充し、教育研究の対象領域を美術・工芸・デザインに拡大、充実させてきた。これら芸術に向かう真摯な姿勢と豊かな教養と知見に裏打ちされた幅広い視野を備えた人材を、社会の広範な分野に送り続けてきた。

さらに、金沢の歴史と風土に培われ育まれて成長してきた伝統芸術の継承発展を担いつつ、さらに造形芸術諸分野での教育研究活動を通じて、広く地域に貢献していくため、美術工芸研究所に教育研究・産学連携・地域連携・国際交流の4センターを設置し、それぞれに独自色を出しながら活動範囲を拡げている。

#### ■ 学生プロジェクトの推進

歴史都市金沢を教室・教材の宝庫として、本学で修得したことを実践する機会として、また、地域の人たち

と交流ができる機会として様々な学生プロジェクトを実践している。

#### KACOA(カコア)

学生のアートマネジメント能力の開発を目的に本学がプロデュースするプロジェクトで、2007、2008年と金沢の中心市街地に期間限定のショップをオープンさせた。2008年は、メインテーマに「21世紀」を掲げ、サブテーマに「New Tradition、新・流儀」を配し、ロゴデザインなど広報からファサード・内装まで学生が担当し、加えて学生及び卒業生がアート志向の強いオブジェから生活の中で使える工芸品まで幅広く作品を提供し、販売した。さらに、創業170年の和菓子の老舗店舗と共同開発したオリジナル落雁の販売など好評を得た。

#### ARTISTONE(アーティストーン)

本学と地元石引商店街とのアートによる地域活性化プロジェクトで、2007年から学生有志により、商店街の空店舗でのギャラリーの運営、学生のデザインしたTシャツを展示す



る「洗濯ロードプロジェクト」などのイベント、有識者や学内外の人々による石引サミットの開催、また商店街をより親しみやすいものとするために、原案・名称を公募し、商店街のマスコットキャラクターの「びっきい」を制作するなど、学生が主体となり様々な企画を実施している。

#### KAP(カップ、オフィスアート)

金沢の都心軸を舞台として産学官連携のもとでアートの発信により魅力的な歩行空間やまちなかの憩いの場を創出するプロジェクトで、沿線の企業のショーウィンドーは、アート性が高く、独創的で提案性のある金沢らしい作品に彩られている。これら継続的な活動が認められ2006年にグッドデザイン賞を受賞するなど、確実に教育成果を挙げている。

#### ■ アートギャラリーの開設

本学の研究教育の資産を活用しながら、創造性を育み、地域との新しいコミュニケーションの場を求め、美術や工芸、デザインの世界を広く市民に向けて発信していくことを目的として、2009年、中心市街地の商業ビルの一角にギャラリーを開設した。質の高い展覧会などを開催していく予定で、これらの活動を通じ、今後も地域に開かれた大学づくりを目指していく。

#### 大学 DATA (2009)

学部：美術工芸学部

研究科：美術工芸研究科

本部所在地：〒920-8656 石川県金沢市小立野5-11-1

交通：JR金沢駅よりバス・小立野バス停下車徒歩10分

TEL：076-262-3531 FAX：076-262-6594

設立年：1955年

設置者：金沢市（2010年度から公立大学法人金沢美術工芸大学（金沢市））

学生数：706名 教員数：54名 職員数：13名



花バスでまちなかににぎわいを再現

公立大学の特色ある取組み・改革 14

## 静岡県立大学

学長：木苗直秀（食品衛生学、食品安全解析学）

### みが 個を拓き、強い絆で知を発信

「県民の誇りとなる価値ある大学」を目指して

#### ■ 薬食同源、食薬融合研究の推進

静岡県立大学は、薬学、食品栄養科学、国際関係学、経営情報学、看護学の5学部・5研究科、及び環境科学研究所を有する総合大学で、それぞれ特色ある教育研究活動を推進しています。本学は、国内で唯一、薬学と食品栄養科学の両分野を持つことから、この特色を生かした薬食同源、食薬融合を共通認識とした共同研究を進めており、「健康長寿科学」の確立を目指しています。

この研究は、文部科学省から、現学長をリーダーとして2002年度の21世紀COEプログラム「先導的健康長寿学術研究推進拠点」、及び2007年度のグローバルCOEプログラム「健康長寿科学教育研究の戦略的新展開」に採択されました。これまでに、薬物と食品成分のがん、炎症、ストレスなどの病態における分子標的研究において多くの成果を挙げ、さらに、英語を言語とする教員チームにより科学英語の実践的習得プログラムを開発して国際的に通用する次世代の研

究者を積極的に育成しています。

#### ■ 産・学・“民”・官の連携

本学は、教育、研究とともに、地域貢献を積極的に進めています。多くの研究成果を生かした産学民官連携活動が活発で、県中部地域に集積している食品、医薬品、化成品産業とは、「フーズ・サイエンスヒルズプロジェクト」を通して、県東部地域とは、医療からウエルネスまで、健康関連産業の振興を図り、日本一の健康長寿県を目指す「ファルマバレープロジェクト」を通して、県西部地域の光・電子技術に関連した産業とは、PETやLEDを活用した「フォトンバレープロジェクト」を通して本県産業界の振興に貢献しています。特にフーズ・サイエンスヒルズにおいて、本学は、近隣の大学とともに食品、医薬品、化学系企業と連携し、ストレスや生活習慣病の克服、アンチエイジング手法の構築等を目指しています。

なお、本学の特徴である「産学“民”官」連携では、産学官の人も家では民であること、さらに、一般の県民の方々



からもアイデアを積極的に頂くことを趣旨としており、毎年開催する「産学民官の連携を考える集い」では、研究室開放、研究成果物の展示、相談会、講演会、交流会などを開催しています。

また、本学は、静岡市郊外の観光スポットである日本平の丘陵地に位置しており、周辺には県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財調査研究所、県舞台芸術センター、県コンベンションアーツセンター・グランシップなどの文化施設があるので、この地を「文化の丘」と称して、地域と連携しながら新たな文化を創造し、発信を目指したプロジェクトを進めています。

### みが 個を拓き、強い絆で知を発信

このキャッチフレーズは、現学長の就任に当たり作成したもので、本学の学生、教職員は、先ず自己の研鑽に励み、さらに、学部や研究科、教室や研究室、また、クラブやサークルで切磋琢磨しつつ仲間を増やし、強い絆をつくり、総合大学として得られた知的成果を国内外にあまねく発信したい、との強い思いを込めたものです。

本学に在籍する全ての者がこの思いを胸に、本学が夢と希望に満ちた学び舎とし、「県民にとって誇りとなる価値ある大学」となるよう、教育・研究・地域貢献・国際交流等をより推進していきます。



第1回学長杯争奪駅伝大会の入賞者（2009.12.4.）

#### 大学 DATA (2009)

学部：薬学部、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部、看護学部

研究科：薬学研究科、生活健康科学研究科、国際関係学研究科、経営情報学研究科、看護学研究科

本部所在地：〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

交通：JR草薙駅からバス3分(徒歩15分)

TEL:054-264-5102 FAX:054-264-5099

設立年：1987年

設置者：静岡県公立大学法人(静岡県)

学生数：2,826名 教員数：269名 職員数：50名

公立大学の特色ある取組み・改革 15

## 神戸市看護大学

学長：金川克子（地域看護学）

### 住民との協働を基盤にした看護職の人材育成

住民による教育支援と学生による地域支援の融合

#### ■ この10年の取組み

神戸市看護大学におけるこの10年の歩みとしては、平成12年度には大学院修士課程、18年度に博士課程を設置し、さらに、17年度には4年制大学として初めての助産学専攻科を開設しました。また、19年度には文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」に近畿圏の6大学が共同申請し採択されました。本学においては、がん医療とがん看護学の質的向上への貢献を目指して、がん看護専門看護師の養成とがん看護インテグレーションコースの実施に取り組んでいます。

本学は、阪神淡路大震災の翌年の平成8年に開設し、4年制の大学としては比較的若い大学ですが、本学の前身である神戸市立高等看護学院や神戸市立看護短期大学の良き伝統を受け継ぎ、神戸市民病院群や多くの関係者に支えられながら、19年1月に10周年記念事業を行ないました。

#### ■ 地域活性化への貢献

本学が長い間続けている地域交流

活動が実を結び、平成18年度には、本学のカリキュラムの1つであります「地域や家族を基盤とした健康生活を支援する看護実践の能力の育成」と「住民主体の健康づくり、まちづくり」が「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に採択されました。

現代GPの取り組みの内容は、新たな看護学教育モデルとして本学と地域とが協働して、地域住民による教育ボランティアを導入したカリキュラムを構築しました。また、従来から本学が地域貢献として実施している数々の健康生活支援事業を統括して発展させ、教育課程との融合を図り、さらに、取り組み全体を補完するためにeヘルスシステムを構築しました。

現代GPは平成18年度から20年度の事業として実施し、一応の区切りを迎えたことになりましたが、地域住民からの事業継続の要望が強く、また、学生への教育保障・カリキュラム継続の必要性からも、21年度には「健康支援地域連携センター」を学内組織として立上げ、さらなる事業の発展を図ることにし、現在に至っています。



地域住民による教育ボランティアを導入したカリキュラム



#### ■ 震災後15年の節目に当たって

2010年は阪神・淡路大震災から15年目の節目に当たります。

本学は、大震災からの復興を願う人々の祈りと期待に支えられて今日まで歩んできました。苦難と戦い、危機を乗り越えてきた人々の強さと優しさは、建学の精神でもあり、開学時からカリキュラムに災害看護学を取りこみ、さらに充実・発展させています。また、震災直後からの前身の看護短期大学での献身的な学生と教員によるボランティア活動を、平成15年からボランティア部が引き継ぎ、これらの活動を教員の研究等に反映させています。

今後の活動に向けては、学内における自己点検や地域住民、大学基準協会等の評価も受けながら、これまでの歩みを振り返り、次の10年に向けての取り組みが重要と考えます。具体的には、組織体制の見直しを行い、教員個々の教育・研究・社会貢献等の活動をさらに充実させるとともに、組織的研究の拡充が必要です。

今後とも、幅広い教養と倫理観をもち、市民の健康に対する関心の高まりによる看護ニーズの多様化に即応できる資質の高い看護専門職を育成することが本学の責務であると考えています。

#### 大学DATA(2009)

学部：看護学部

研究科：看護学研究科

本部所在地：〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

交通：市営地下鉄西神・山手線学園都市駅から徒歩10分

TEL: 078-794-8080 FAX: 078-794-8086

設立年：1996年

設置者：神戸市

学生数：487名 教員数：58名 職員数：15名

公立大学の特色ある取組み・改革 16

## 奈良県立医科大学

学長：吉岡章（小児科学、血液学）

# 地域医療を支え世界に羽ばたく

地域基盤型医療教育と大学連携によるグローバル化

### ■ 地域医療貢献の実績と継続・発展

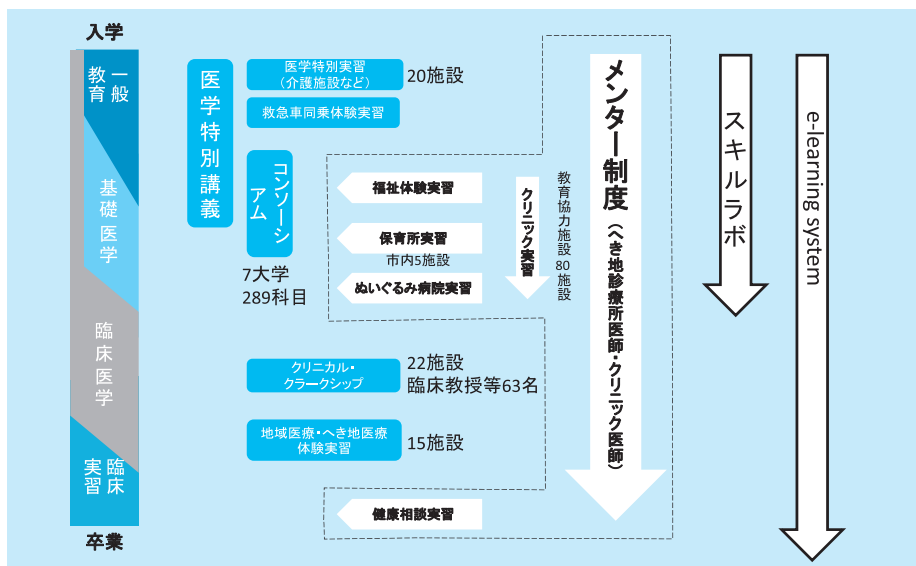
本学は、地方の、公立の、単科の医科大学である。この利点を生かした実績は、地域医療への大きな貢献である。本学の医学科入学生に占める奈良県出身者は平均25%であるが、卒業生が県内の病院で研修する割合は43%、そして、県医師会会員に占める割合は51%（研修医と医員を加えると65%超）である。また、県下の18公立・公的病院のうち15病院では、院長以下全医師が本学出身・関係者であり、残る3病院でも本学出身者が複数科で地域医療を担っている。一方、看護学科卒業生も約50%が県内医療機関で活躍している。この数字こそが建学65年の本学の地域貢献の最大の証しである。

入学直後から始まる地域医療マインドを育成するカリキュラム（後述）と卒後の多彩な地域連携研修プログラム、そして、臨床各科と県下医療機関との有機的ネットワークによる人材交流が成功しているからこそ、もたらされた成果である。

### ■ 地域基盤型医療教育カリキュラム

地域に根付いて医療に積極的に従事することを喜びと感じ、現場で実際に役立つ総合力のある医師・看護師の育成を目指している。そこで、学習の場を大学から地域へ拡大し、1年次から地域での体験を通して医療人としての責任感を涵養する「地域基盤型医療教育カリキュラム」（平成20年度文科省『質の高い大学教育推進プログラム』に採択）を構築し、実践している。同時にスタートした医学科地域枠（看護学科では平成16年度から実施中）と緊急医師確保特別枠の入学者を中心に地域定着をさらに促して行くものである。

本カリキュラムは、本学各科と県地域医療連携課・県立五條病院へき地域医療支援部に加えて、県・地区医師会の絶大な支援が約束されている。実習の目玉として、「メンター（指導医）制度」を導入した。実地医家をメンターに委嘱し、診療現場で繰り返し直接指導を受けるものである。その他、図のごとくクリニカル・クラーク



地域基盤型医療教育カリキュラムの概念図



シップ（6年次に1領域4週間×4サイクル）を含む8種の多彩な実習を6年間に体験する。

### ■ 世界の知の拠点との連携

本学が、地方の、公立の、単科の医科大学である故の物足りなさは、一般教養教育資源の不足とグローバル化への立ち後れである。これらを補い、強化するために世界中の知の拠点であるトップクラスの大学と連携し、教育力・研究力・診療力の高度化とグローバル化を推進している。

すでにアジアとの連携を高めるために、1996年にタイ王国チェンマイ大学と、2004年には中国福建医科大学と連携協定を締結した。タイとは毎年4～10人の学生（医・看）と教官の交流、研究者の受け入れと共同研究を実施している。英国Oxford大学とは2008年に学術交流協定を締結、2009年には本学で記念シンポジウムを開催した。また、英国Imperial College Londonと、地域医療のe-learningプログラムを相互に導入し、ドイツRuhr大学と交換学生協定を締結した。

国内では、同志社女子大学、奈良先端科学技術大学院大学及び早稲田大学とも連携協定を結び、学生と教官・研究者の交流、FD・SDでの協働、一般教育と基礎・臨床医学、看護教育の広範囲の学術研究協力を開始した。

### 大学 DATA (2009)

学部：医学部（医学科、看護学科）

研究科：医学研究科

本部所在地：〒634-8521 奈良県橿原市四条町840

交通：JR畝傍駅・近鉄橿原線八木西口駅から徒歩10分

TEL:0744-22-2281 FAX:0744-25-7657

設立年：1952年

設置者：公立大学法人奈良県立医科大学（奈良県）

学生数：1,029名 教員数：342名 職員数：74名

公立大学の特色ある取組み・改革 17

## 広島市立大学

学長：浅田尚紀（情報工学）

# 国際、情報、芸術、平和の知の拠点

世界を目指し未来を拓く大学

### ■ 国際平和文化都市の公立大学

本学は、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念とし、平成6年度に国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部で開学し、平成10年度に広島平和研究所と大学院博士前期課程を、平成12年度に博士後期課程を開設しました。

以来、世界と地域が求める新しい時代の要請に応えるため、国際、情報、芸術、平和をキーワードに、特色ある教育研究活動を通じ、学術の振興と感性豊かな創造力、実践力、高い倫理観を備えた人材を育成し、教育研究の成果を地域に還元するとともに、広く世界に発信しています。

### ■ 広島で平和を学術的に学ぶ

本学では、平和について学術的に学ぶ機会を国内外の学生に提供することを目的とした特色ある講座とし

て、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」を開講しています。

平成15年度から毎年実施しているこの講座では、核問題、異文化コミュニケーション、メディア、環境、紛争解決など幅広い視点から平和について専門的に学び、討論します。授業は、国際学部と広島平和研究所の教員が担当し、すべて英語で行われます。受講生は、平和記念資料館の見学や被爆者との対話、平和記念式典への参列などの行事にも参加します。平成21年度は、海外16カ国の大学からの学生32人を含め、59人の受講者がありました。さらに平成21年度からは、大学院生対象の「Advanced HIROSHIMA and PEACE」を併設し、10人の外国人大学院生を受け入れました。

この講座の受講がきっかけとなり、平和活動や平和学の道に進むことを選択した外国人受講生も少なくありません。平成16年に受講したドイ



ツの医学部学生は、平和活動を学ぶためコスタリカの国連大学の大学院に進学しました。同じ年に受講したニュージーランドの学生は、国連大学で平和学を学んでいます。今後もこうした講座を通じて、次世代への被爆体験の継承など世界恒久平和の実現に貢献する人材を育成する教育を推進していきます。

また、平成21年度から財団法人広島平和文化センターと連携し、被爆体験の継承や平和の実践活動を行っている専門家から学ぶ「広島からの平和学：実践の方法」を全学共通教育科目として開講しています。

### ■ 広島型公立大学法人を目指して

広島市立大学は、平成22年4月に公立大学法人に移行し、新たな運営体制の下、広島市の「知の拠点」としての機能を高めると共に、行政と市民、および行政と企業の協働を促進する「知の触媒」として広島市の都市機能の強化に貢献します。さらに、「平和学」の構築等を通じて広島の高専教育研究機関としての特色を明確に示し、国際平和文化都市に相応しい大学として先端的な学術研究を推進していきます。また、地域社会の要請に応え文化の向上と社会の発展に寄与する「地域と共生し、市民の誇りとなる大学」を目指していきます。

### 大学 DATA (2009)

学部：国際学部、情報科学部、芸術学部  
 研究科：国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科  
 本部所在地：〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1  
 交通：広島バスセンターからバス 13分  
 TEL：082-830-1500 FAX：082-830-1656  
 設立年：1994年  
 設置者：広島市（2010年度から公立大学法人広島市立大学（広島市））  
 学生数：2,064名 教員数：200名 職員数：44名



HIROSHIMA and PEACE 受講者（平和記念公園原爆の子の像前）

# 2010年度、新たに3つの公立大学が生まれました

2010年度新たに公立大学となった3大学を紹介します。(「公立大学2010」原稿を事務局にて編集しました)

## 静岡文化芸術大学

文化政策学部、デザイン学部  
学長：熊倉功夫（日本文化史、茶道史）



### 文化力・デザイン力のある 実務型の人材を養成

静岡文化芸術大学は、2000年4月に静岡県と浜松市、地元産業界が協力して運営する「公設民営方式」の私立大学として開学しました。浜松市の中心市街地に新たなパワーを生み出す「都市型大学」として、社会の様々な分野で活躍できる実務型の人材の育成と、地域、国際、世代に開かれた大学であることを目的に、地域の方々に支えられ成長してまいりました。

2010年4月、私立大学から静岡県が設立する公立大学へと移行し、文化と産業の振興の一翼を担う「拠点施設」として、社会との幅広い交流等を更に図ってまいります。

## 新見公立大学

看護学部  
学長：難波正義（医学）



### 国際的な視野を備えた 地域・社会に有為な看護職者を育成

新見公立大学は、新見公立短期大学（1980年開学）の看護学科及び地域看護学専攻科を改組・転換し、2010年に開学しました。

新見公立短期大学で培ってきた30年間の実績を踏まえ、「豊かな教養と高い倫理性を養い、多面的な人間理解と専門的な基礎的知識・技術を身に付け、科学的思考に基づく判断力や創造力のある看護専門職として、国際的な視野を備えた、地域及び社会に有為な人材を育成する。」ことを教育理念に掲げ、魅力ある大学づくりを目指しています。

## 名桜大学

人間健康学部、国際学群  
学長：瀬名波榮喜（英文学）



### 国際社会で活躍できる 人材育成

名桜大学は、名護市を中心とした北部12市町村と沖縄県が設置経費のすべてを負担して、平成6年に国際学部（国際文化学科、経営情報学科、観光産業学科）の1学部3学科の公設民営の大学として開学しました。その後、大学院国際文化研究科、人間健康学部スポーツ健康学科、看護学科を設置、さらに国際学部を国際学群に改組しました。

2010年4月からは公立大学に設置形態を改めましたが、これからも「平和・自由・進歩」を建学の理念とし、国際的感覚とグローバルな視点を持つ人材、健康支援と健康増進に貢献できる人材を養成する大学を目指しています。

## 公立大学協会の主な活動の記録 (2009.12.18 ~ 2010.4.30)

役職名組織名は全て日付当時

### 2009年12月

24日(木)★小川淳也総務大臣政務官に、公立大学協会要望事項説明 矢田会長、小林副会長、中田事務局長

### 2010年1月

7日(木)★第2回60周年記念誌編集作業部会〔協会事務局〕

20日(水)★第5回公立大学経営に関する作業部会〔下関市立大学〕

21日(木)★文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会(第43回)に対し、「大学共同利用機関法人及び大学共同利用機関の今後の在り方について(これまでの議論の整理)」に寄せて」を提出

### 2月

1日(月)★第2回運営会議〔協会事務局〕

9日(火)★第3回60周年記念誌編集作業部会〔協会事務局〕

10日(水)★安全保障貿易管理について説明 経産省〔協会事務局〕

19日(金)★第6回理事会★平成21年度第1委員

会小会議★平成21年度第2委員会小会議★平成21年度第3委員会小会議〔協会事務局等〕

### 3月

1日(月)★第4回60周年記念誌編集作業部会〔協会事務局〕

3日~5日(水・木・金)★UMAP国際理事会 小山内優(国際教養大学副学長)〔アルカディア市ヶ谷〕

29日(月)★第3回中長期的な大学教育の在り方検討作業部会〔協会事務局〕

31日(水)★文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室に「教員の資質向上方策についての提案」提出

### 4月

16日(金)★文部科学省大学振興課藤原課長、高橋学務係長、佐藤公立大学係長来局、矢田会長に対し大学の教育情報の公開について説明〔協会事務局〕

21日(水)★就業力育成支援事業について説明 専門教育課荒川教育振興課長〔協会事務局〕

23日(金)★第7回理事会★第3回運営会議〔協会事務局〕

24日(土)★新見公立大学開学式典 矢田会長

26日(月)★学位論文のデジタル化について説明 国立国会図書館企画課立松課長補佐、遊佐情報企画室長〔協会事務局〕

30日(金)★文部科学省初等中等教育局に「平成23年度以降の全国学力・学習状況調査の在り方等に関する提案等」を提出

### 2010年度の予定

今後の会議やセミナー等の開催予定をお知らせします。詳細につきましては、あらためてご案内いたします。

●7月5日(月) 公立大学実態調査説明会(東京)

●8月4日~6日(水・木・金) 公立大学法人会計セミナー(東京)

●8月26日・27日(木・金) 公立大学SDセミナー(東京)

●10月12日(火) 入学者選抜実務担当者協議会(東京)

●11月11日・12日(木・金) 学長会議・事務局長等連絡協議会(北九州市立大学等)